令和2年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間(最終))

広南中学校区 校番 2 学校名 呉市立広南中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	Ⅰ 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	(貫)9年間を通 して, Society5.0 に必要な学力を 育成する	(貫)「主体的・対 話的で深い学び」 を充実させるた めの授業改善	2学期は計画的に三角ロジックとICTを活用したグループ別研究授業が行われた。アンケート結果から、各教員が率先して「三角ロジック」「ICT」の活用を研究授業で行い、指導力向上につながる授業が展開されている。生徒は「授業では理由を明らかにして発表している」ことについて、今回は中間結果の65%から80%近くの生徒ができるようになっており、定着はできつつある。まだ20%以上の生徒が否定的評価で、このことについては継続指導が必要である。	「三角ロジック」「ICT」を利用したグループ別研究授業を実施していく中で教師の指導力向上があった。また生徒もその授業を楽しみながら、意欲を持って取り組める様子があった。コロナ禍の中で急速に進んだICTの活用を授業で定着させるには今後も授業実践を継続していく必要がある。4月から生徒1人に1台のタブレットになる中で、教職員は授業の目的に沿ってタブレットを使用していくことが必要である。
		横断的・総合的なカリキュラムデザインおよび評価の工夫による 学びの質の向上	教科及び総合的な学習の時間において、「課題発見・解決学習」の単元や貫きカリキュラムを、現状に応じて実施可能な形に臨機応変に変更し、主に2学期に実施することができた。「自分の考えを積極的に伝えている」について、話し合いや伝え合う場面を工夫して設定することで肯定的評価の上昇が見られた。貫きカリキュラムについては、小中で連携して授業研究や研修を重ね、道徳のカリキュラムを開発することができた。	これまで開発した「課題発見・解決学習」の貫きカリキュラムの計画を実践するとともに、今年度実施できなかったものについて、新しい生活様式でも実施できるように見直し、来年度に向けてのカリキュラムの改善に取り組む。また、今年度作成した道徳のカリキュラムを基にして、さらに来年度開発を進めていくための準備を行う。
**	(貫)礼節と挑戦 心を身に付け, 健やかでたくま しい心と体を育 成する	生徒の相互指導 能力の向上によ る学校の伝統文 化の継承・発展	様々な新型コロナウイルス感染症対策の制約がある中で、例年以上に工夫して開催された文化活動発表会で、生徒一人一人が自分のできることを考えて活動できた。さらに保護者や地域の方から評価されたことで、達成感につながった。	新型コロナウイルス感染症予防に気をつけながらも、「何ができるか」を生徒会執行部を中心に、生徒自身で考えさせる取り組みを行っていく。
		不登校・低学力 等の課題への組 織的な対応能力 の向上	・生徒会執行部のメディアコントロールの取組みによって生活の中でのSNSの活用について、多くの生徒が意識するようになってきた。 ・不登校になりそうな生徒に対して、教職員やSC、保護者と情報交換を密に行い、保護者も含めて早めの対応ができている。	・うまくSNSを活用できない生徒については引き続き、保護者との連携をしながら改善をしていきたい。・引き続き、全教職員で情報交換を行い、早めの対応を行っていく。
*	(貫)地域に感謝・貢献し活力を生み出す学校をつくる	地域の人材活用 及び生徒の地域 社会で貢献・協 働できる場の充 実	・文化活動発表会や総合的な学習の時間などで、地域で挑戦する場の設定により、生徒の地域貢献の意識が高まった。 1学年:「落語」ふれあいサロン等の出前落語で表現 2学年:「起業企画」広南劇場で販売活動 3学年:「未来貢献~世界の人とつながろう~」広南劇場で創作劇、国際交流による視野の広がり・広南避難プログラムにおいて、小坪地区の避難情報について、3学年を中心に自治会長と防災リーダーと協議した。この内容をプログラムに盛り込み、地域回覧することで地域貢献を行う予定である。	今後も、地域の専門性を生かしながら、総合的な学習の時間を中心に、地域の方と協働し貢献できる場を設ける。具体的には、「7.9広南防災の日」を受け継ぎたい。また、広南避難プログラムをもとに、長浜・小坪地区の避難方法等について地域の方と共に協議したい。また、コロナ化であるが可能な範囲で、地域ボランティア(アマチュア無線、図書環境整備等)を募集し、地域と共にある学校を目指したい。
		活動の充実に向けた,子供と直接向き合う時間の確保(業務改善)	・教職員が子供と直接関わる時間がさらに確保され、充実した教育活動が行われている。これは教職員のやりがいにもつながっている。・モジュール校内研修を積極的に活用し、内容の充実も図った。また、放課後の研修や会議は極力避けるよう見通しをもって研修等を行うことで、引き続き、生徒と直接向き合う時間を確保することができた。	そこで生み出された時間をできる限り生 徒と直接向き合い関わる時間に活用し